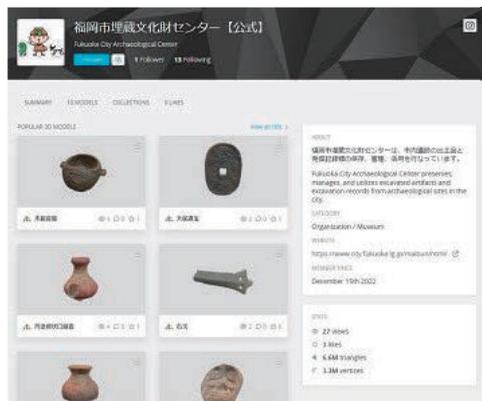


マイコレみてみて！



埋蔵文化財センターのホームページでは、3Dスキャナを使って作製した3D画像を公開しています。鏡などの銅製品や木製品、土器など現在50点をアップしています。展示ケース越しにしかみることのできない遺物を色々な角度から観察してみませんか？



表紙の写真

たてもちぶじんはにわ はいづか
盾持武人埴輪 (拝塚古墳/早良区重留)

拝塚古墳は発掘調査で見つかった全長75mの前方後円墳です。古墳の周囲には周溝が巡り、一部には陸橋が設けられていました。周溝内からは埴輪のほか、壺形土器や高坏などの祭祀のために用いられたと考えられる土器が出土しました。

この埴輪は古墳の前方部の上に据えられていたと考えられます。特徴的なリーゼントのような頭部は「冑」を表現したものと考えられます。また、体の前面には「盾」が、背面には矢を入れる「鞞」が表現されています。拝塚古墳の年代は、出土遺物の形態の変化を比較検討する「型式学」から4世紀末～5世紀中頃と考えられ、盾持武人埴輪はその当時の武人の姿を想像できる貴重な埴輪です。

歴史の風

Vol.40

2023年9月号

ふくおか文化財だより



特集

埋蔵文化財と考古学

編集・発行 / 福岡市経済観光文化局文化財活用部
〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 / TEL : 092-711-4666
福岡市の文化財HP : <https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



音声コードのご利用には、Uni-Voiceのダウンロードが必要です。

埋蔵文化財と考古学

考古学の発掘調査現場では地層が年代を決める重要な要素になっています。右の図は、埋蔵文化財センターのホームページのトップ画像に使用されているイラストです。下から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、鎌倉・室町時代に分けて色分けしています。各地層のくぼみは、その時代につくられた生活の跡（竪穴住居など）です。実際の地層は発掘調査地点によって異なりますが、このイラストでは、歴史は積み重なってできていることと、時代によって出土するものが異なるという、埋蔵文化財のイメージを表現しています。今回は、このイラストの中から、各時代の特徴的な逸品をピックアップしてご紹介します。



縄文時代



くわぼらひぐし
 桑原飛櫛貝塚（西区）から出土した貝面。イタガキの貝殻を使用しています。目を模したのでしょうか。径1cmの孔が二つあいています。類例としては、熊本市の阿高貝塚あだかなどが知られています。貝面は本州では出土例がなく、朝鮮半島で出土するため、大陸との交流がうかがえる貴重な資料です。

弥生時代

よしたけ たかぎ
 吉武高木遺跡（西区）から出土した多鈕細文鏡。中世までの銅鏡の大半は、紐を通すつまみが1カ所のみですが、この鏡は2カ所（多鈕）あります。また、文様は非常に細かく、外側は鋸歯文、内側は円形・三角形・長方形の幾何学文様で埋め尽くされており、朝鮮半島産と考えられています。



古墳時代

まるくまやま
 丸隈山古墳（西区）から出土した水鳥形埴輪。目は竹管を押しつけて表現しており、つぶらな瞳です。また、尾の端の跳ね上がりや羽の表現もあります。水鳥形埴輪は、被葬者をあの世に送る意味があると言われています。



奈良・平安時代

こうろかん
 鴻臚館跡（中央区）出土の木簡。地名や産物、年号などの墨書があり、行政的な連絡・事務記録等に使用されました。付札として使われた木簡には紐をかけるための切れ込みがあります。



鎌倉・室町時代

めいびん
 博多遺跡群（博多区）から出土した唐草文梅瓶。黒色の釉薬を掻き落として唐草文を表現しています。産地については諸説ありますが、福建省産と考えられています。



もっと知りたい！



★が付いている遺物は、福岡市博物館の常設展示室でご覧いただけます。※貸出等により変動あり。